鈴鹿の風

すずかのかぜ

VOL. 32

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 広報誌

御挨拶
国立病院総合医学会で「ベストポスター賞」を受賞しました
第4回筋ジストロフィー医療研究会で優秀演題賞を受賞
国際学会参加報告
新任医師のご紹介
指導室からのお知らせ
地域医療連携室だより
名誉院長の部屋
障害者虐待防止法をご存知ですか?
昭和・平成スポーツオタクコラム／番外編

ベストポスター賞を受賞した研究メンバー

御挨拶

独立行政法人
国立病院機構鈴鹿病院 院長　久留（くる）　聡（さとし）

筋ジストロフィーの分野も、いよいよ治療の時代を迎えつつあります。海外ではアタルレンR（リードスルー薬）やエテプリルセンR（エクソンスキッピング薬）が仮承認されたというニュースを聞かれた方も多いでしょう。今年は、本邦でも、脊髄性筋萎縮症の治療薬であるスピンラザRという核酸医薬が承認され、晴れて臨床で使えるようになりました。この薬の開発には、以前当院に勤められていた佐橋健太郎先生が大きく関与されていたとのことであり、本当に喜ばしいことです。

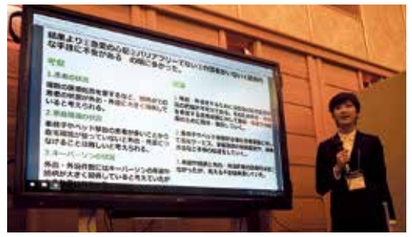
筋ジストロフィーの研究は、デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）の責任遺伝子であるジストロフィンが発見されたことにより飛躍的に発展しました。30周年を記念して、ジストロフィンを発見したアメリカのKunkel先生が来日され講演をされるというので、国立精神・神経医療研究センターまで聴講に行ってきました。まだ現役バリバリのactiveな研究者です。講演では、発見に至るまでの経緯や、その後の研究の進展が語られたのですが、筋ジスの基礎研究には多くの日本人の貢献があったことをあらためて知ることができました。

同じセミナーで、今年学士院賞を受賞された東大の戸田達史先生がご講演をされました。言うまでもなく、福山型筋ジストロフィー（FCMD）の原因遺伝子フクチンを発見された先生です。国立療養所下志津病院におられた頃には、この病気の家系の血液を集めるために全国行脚をされたこともあるそうです。フクチン発見後も精力的に病態機序の研究を続けられて、ついに昨年フクチンの役割を解明されました。フクチンがαジストログリカンという蛋白の糖鎖修飾に関与している酵素であることは推測されていたのですが、質量分析法という手法を使って見事にフクチンがリピトールリン酸転移酵素であることを突き止められたのです。ちなみに、質量分析法というのはノーベル賞を受賞された田中耕一博士の開発された技術です。フクチンがうまく働かないと、筋の内側の膜（形質膜）のαジストログリカンと、筋の外側の膜（基底膜）のラミニンとの結合がうまくいかず、そのために筋が弱くなり壊れやすくなってしまうのです。さらに、FCMDの治療法研究も進められているとのことでした。FCMDは、日本でDMDに次いで二番目に多い筋ジストロフィーですが、治療が実用化する日も遠くないだろうという印象を受けました。大いに期待ができそうです。

HEAD LINE NEWS

国立病院総合医学会で「ベストポスター賞」を受賞しました

平成29年11月10日（金）・11（土）の両日、香川県内の5つの会場において第71回国立病院総合医学会が開催されました。今回は「道 ー明日へー 国立医療の未来を拓く」をテーマとして、当院からはポスター発表6題、口演発表4題の発表を行い、看護師中村 唯さんがベストポスター賞を受賞しました。



ポスター発表を液晶端末でおこないました

第1病棟　看護師　中村（なかむら）　唯（ゆい）

「神経難病病棟患者の外出・外泊について」というテーマで研究発表しました。神経難病病棟では医療処置を必要とする患者様が多く入院しています。そのため外出・外泊をすることは困難な場合も多く、患者様や御家族は複雑な思いを抱えている状況です。今回、患者様の御家族を対象にアンケート調査を実施させていただくことで、普段御家族が抱えている悩みや不安等を明らかにすることができました。今後、研究結果を病棟のスタッフと共有し、患者様や御家族の思いを汲み取りながら、一人でも多くの患者様が外出・外泊などの望みやQOL向上維持に向けた支援ができるように努力したいと思っています。今回このような賞をいただけたのはアンケートに協力していただいた患者様の御家族、ご指導いただいた院長先生はじめ諸先生方、スタッフのおかげであると感謝するとともに、大変嬉しく思っています。ありがとうございました。

HEAD LINE NEWS

第4回筋ジストロフィー医療研究会で優秀演題賞を受賞

臨床工学室 主任臨床工学技士　村田（むらた）　武（たけし）

村田臨床工学技士と小長谷名誉院長

今回、第4回筋ジストロフィー医療研究会において「一般病棟での人工呼吸器管理について」という表題にて優秀演題賞をいただきました。この写真は当日、会場で小長谷名誉院長と撮影して頂いたものなのです。小長谷名誉院長はスタッフが学会発表する際に必ず応援に来ていただけるので、壇上で緊張してしまう私にとってはとても心強い存在です。今回、院内で多く稼働する人工呼吸器のトラブルが減少しかつ安全に患者様に使用していただけるように部署一丸となって地道に取り組んだ結果が評価されたと感じています。短い時間の発表ではありましたが質疑応答でのディスカッションでは臨床工学技士の今後の活動や当院での業務について会場の参加者により深く理解して頂いたと感じています。

臨床工学技士の仕事は裏方であり地味な業務が殆どですが、医療現場の安全や医療の質を高める為に今後ともチーム一丸となって望んで行きたい所存です。今回、準備がなかなか進まず安間副院長よりアドバイスをいただきなんとか発表をまとめる事ができました。南山臨床研究部長や久留院長からも御助言をいただき無事に発表ができた事を深く感謝いたします。

国際学会参加報告

副院長　安間（やすま）　文彦（ふみひこ）

10 月 28 日－ 11 月 1 日、カナダ・トロントで開催された ACCP（アメリカ胸部専門医学会、機関誌は CHEST）の年次総会に参加したので報告します。

最近の 10 年間、副院長職は多忙で、国際学会の参加は困難でした。今年の初め、世界最大の臨床医学会のひとつである ACCP 総会が、秋にトロントで開かれることを知りました。トロントはカナダ東南部のオンタリオ湖（北米五大湖のひとつ）北岸にあり、1988 － 90 年に私が住んでいたところです。総会のトロント開催は 1998 年以来でしたが、その時は ACCP のフェロー授与式に出席しました。今もお世話になった恩師や友人が住み、後輩が留学しています。「あの町に行ってみたい ---」と思いました。

トロントで学会発表をしようと、約 10 年間プログラム委員をつとめた腹臥位療法（うつぶせ寝治療）推進研究セミナー（1999 － 2016 年、年 1 回開催）で話した臨床研究をまとめました。腹臥位研究は、日野原重明先生（聖路加国際病院名誉理事長）のご指導によるものであり、成果の海外発信は先生のご趣意にも沿うものでした。

演題「神経難病患者に対する短時間腹臥位療法：酸素化におよぼす影響と口鼻腔ドレナージ効果」を応募しましたが、採否判定までの数か月が長く感じられました。ACCP から「採択」（ポスター、呼吸ケア部門）の連絡をうけ、日野原先生には、先回のセミナープログラム委員会でのスナップを同封した上、この吉報をおつたえしました。その 5 日後、先生のご訃報（享年 105 歳）を聞き、私は声を失いました。7 月 18 日のことでした。

ACCP 総会は、再開発のすすんだ市街中心部、トロント総合駅（ユニオン）から徒歩 5 分の距離にあるコンベンションセンターで開かれました。会場一帯は、CN タワー（高さ 593 メートル）、メイプルリーフス（NHL）とラプターズ（NBA）の本拠であるエアカナダ・センター、ブルージェイズ（MLB）のロジャーズ・センターなどがすべて徒歩圏内にある、巨大建造物複合体でした（図）。

睡眠医学、呼吸ケアのセッションには積極的に参加し、総会の最終日がポスター発表でした。討論はおよそ 1 時間で「なぜ腹臥位療法は短時間か？」「寝たきりの神経難病患者に腹臥位を安全におこなえるのか？」「腹臥位で酸素化の改善するメカニズムは何か？」などの質問に、私は丁寧に答えました。おおむね「腹臥位療法は、従来は集中治療施設における急性呼吸不全だけが対象であったが、安全におこなわれれば、神経難病など慢性疾患患者の体位ドレナージ、呼吸ケア、口腔ケアに有用かもしれない」とまとめられました。医療機器展示では、集中治療施設用の腹臥位療法ベッド（人工呼吸中の患者を固定し、体中心軸の周りを 360 度回転させる大型ベッド）に興味をもちました。

1 週間の滞在中、恩師夫妻、友人一家や共同研究者との再会をよろこび、後輩たちと楽しい時間を過ごしました。よく通ったカフェや中華街レストラン、研究をしたトロント大学、ジョギングをしたオンタリオ州議事堂、クイーンズ・パークやトロント大学のキャンパスをなつかしく見て回りました。

鈴鹿病院のような慢性療養施設では、腹臥位療法は確立した治療とはいえません。プラス面とマイナス面をふくめた効果を検証することに、意義があるとおもいます。今後、この体位療法が神経難病、重症心身障害児者、寝たきり高齢者などの生活、医療とケアの質の改善に役立つことを期待しています。

INTRODUCE OUR NEW MEMBER

新任医師のご紹介

小児科 医師　河井（かわい）　和夫（かずお）

本年 11 月より、鈴鹿病院重心病棟で働かせて頂いております。鳥取県の片田舎の出身です。トロント、東京、大阪等の大都会に在住したこともありますが、大学入学以来、殆どは、三重県内で、生活しております。実際、鈴鹿病院にも、約 30 年前に赴任し、短期間ですが、同病棟を担当しており、当時は「こども」だった、見覚えのある顔にも出会い、懐かしく思っております。小児科医となって、40 年を超え、「爺」になってしまいましたが、まだまだ体力はあり、頑張りますので、応援、よろしくお願いします。

指導室からのお知らせ

冬のイベントをおこないました

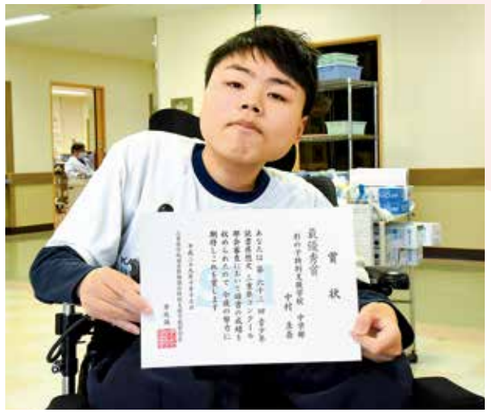
クリスマス会（西２階病棟）

筋ジストロフィー病棟では、12 月 6 日に東西合同で中央病棟 3 階プレイルームにて「クリスマス会」を行いました。また、12 月 7 日には西 1 階病棟、12 月 8 日には東 1 階病棟の各デイコーナーでも、クリスマス会を行いました。ゲストはそれぞれ「Mina&Tomo」さん、「ミルテ♪」さん、「ラ・スペランツァ」さんで、ピアノやキーボード、リコーダー等でクリスマスソングやポピュラーミュージック等を演奏したり、歌ったりしていただきました。職員による恋ダンスもあり、会場が一体となって楽しみました。

重症心身障害病棟では、11 月 17 日に東 2 階病棟、11 月 29 日に西 2 階病棟が、それぞれ 3 階プレイルームにて「冬のお楽しみ会」を行いました。ゲーム（昭和のクイズビンゴ・コロコロチーンゲーム）やダンス（学園天国・ひょっこりひょうたん島）で、初冬の午後のひとときをみんなで共有することができました。

地域医療連携室だより

患者さんが読書感想文コンクールで最優秀賞を受賞しました


最優秀賞を受賞した中村圭吾さん

療養介護病棟へ入院中の中村圭吾さん（15）が第 63 回青少年読書感想文三重県コンクール特別支援学校の部において『最優秀賞』を受賞しました。中村さんは「町が海におそわれた―伊勢湾台風物語」を題材としてコンクールに応募。三重県内の応募総数 81 点の中から厳正な審査の結果、最優秀賞に選ばれました。通学中の特別支援学校で表彰状を受け取った中村さんは「これからも勉強や文化活動を頑張っていきたい」と笑顔で話していました。

名誉院長の部屋

名誉院長　小長谷（こながや）　正明（まさあき）

一富士、長寿、大往生

明けましてお目でとうございます。

一富士、二鷹、三茄子と言いますが、綺麗な富士山を目にすると心が洗われ、嬉しくなります。東海道新幹線で三島のあたりで見上げる富士山は雄大ですし、飛行機の窓から眺める夕映えの雲の上の富士山も、ある種の神々しさがあります。東京からの知人が「今日は新幹線からの富士山が素晴らしかった。幸せだった、きっと何かいいことがあるに違いない」などと言うと、私も迷うことなく、そうだそうだと頷けてしまいます。

病院の外来診療をしていて、富士山と同じように感じるのは、超高齢者の患者さんです。診察を終えて「先生ありがとうございます」と、元気に手を合わせながら帰って行かれるのを目にすると、今日はいいことがあったと，これも素直に頷けてしまいます。

私が医者になったばかりの頃は、医局でその日に 90 歳の方を診察したことが話題になっていました。寿命が伸びたせいで、話題の年齢も高くなりました。それでも、岡田リウ様のように百歳を超えるのは大変なことだと思います。総理大臣から表彰され、お元気な声とお顔ですが、脳や内臓には、それなりの年月の風雪の傷跡が刻まれています。ご主人を戦争で亡くしながらをお子さんを育て上げ、保護司として社会に貢献してと、きっちりとした人生の道も決して平坦ではなかったと伺えます。どの方も、おそらくそうでしょうが…。

私の恩師である名古屋大学名誉教授の祖父江逸郎先生は神経内科の大御所で、97 歳になられます。今なお、小柄な体ながらしっかりとした足取りでどこにでも出向かれて講演されますし、私も何かとご指南を受けています。2 年ほど前、教え子たちが集まって麻雀の卓を囲みました。ニコニコしていた先生が急に、これだこれで上がりだろうと牌を開きました。すると、それは役満の四暗刻（スーアンコウ）でした。野球で言えば満塁ホームランのような素晴らしいものです。先生の頭脳明晰さと集中力、それに運の良さを実感させられたものでした。そのような先生にご指導いただいてきた鈴鹿病院も、ご幸運のお裾分けを頂いてきたのでしょう。

岡田り宇さんと小長谷名誉院長・鍵谷外来看護師長

超高齢の方々は、独特の予知能力があるのかもしれません。ある時、私が友人夫婦と会食していると、奥様のケータイが鳴り、「ああ、自分で言っていた通りだったのね」と返事をしていました。百四歳の大伯母が「一週間後に私は死ぬ」と言い、今日がその日で、認知症もなくて元気だったのが眠るように旅立ったとのことでした。一世紀以上の人生を歩み、見るべきものを見尽くした後に、自らスイッチをオフにするように消えていく…。真の大往生ですね。

ともあれ、岡田さんをはじめとする高齢の方々、患者さんのみなさん、今年もしっかりと体と脳みそを養生して、無理なく元気にお過ごしください。

CHECK! 障害者虐待防止法をご存知ですか？

障害者虐待防止法は、平成 24 年 10 月 1 日に施行された法律で、正式には「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」といいます。障害のある人に対する虐待を防止し、権利・尊厳を守ることにより、障害のある人の自立及び社会参加を促すことを目的としています。障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者には、通報義務が課せられています。

虐待にあたる行為は、殴る・蹴る・身体を縛りつけるといった「身体的虐待」だけではありません。性的な行為を強要したり、本人の前でわいせつな言葉を発したりする「性的虐待」や、言葉で脅したり、侮辱したりする「心理的虐待」、食事を与えない、お風呂に入れないなど世話を放棄する「ネグレクト（放棄・放置）」、勝手に障害者の財産を処分したり、日常生活に必要な金銭を渡さなかったりする「経済的虐待」も、虐待行為にあたります。

全職員を対象とした虐待防止研修会

鈴鹿病院においては、毎年障害者虐待防止の研修を行っており、今年は 10 月 25 日に全職員を対象に実施しました。日常の看護・介護・日中活動支援にひそむ「不適切な対応」に気づき、「虐待の芽」を摘み取り、適切な支援を提供できるよう、これからも障害者虐待防止に努めていきたいと思います。

昭和・平成スポーツ・オタクコラム番外編 その3

落合監督の黄金時代

副院長　スポーツドクター　安間　文彦

今回は、高木守道監督の前任者、平成16年～23年にドラゴンズ監督をつとめた落合博満氏（64歳）についてです。落合監督が「勝利への道」をスローガンとした8年間、ドラゴンズはセリーグを4回制覇しました。

平成16年のシーズン開幕戦（対カープ）では、移籍後3年間に一軍登板のなかった元スワローズのエース川崎憲次郎投手が先発、2回表0対5でノックアウトされましたが打線が奮起、8対6と逆転勝利しました。この年、ドラゴンズは選手補強を凍結したにもかかわらず、5年ぶりのリーグ優勝を果たしました。

平成19年、セリーグ2位に終わったドラゴンズはクライマックスシリーズでセリーグ1位のジャイアンツを一蹴し、日本シリーズでファイターズと雌雄を決しました。ドラゴンズ3勝1敗でむかえたナゴヤドームでの第5戦の最終回、落合監督は、8回まで一人の走者も出さなかった山井大介投手を岩瀬仁紀投手にスイッチしました。ピッチャー交代の場内アナウンスに、球場全体が異様な雰囲気につつまれました。そして、継投による完全試合（1対0）、球団史上2度目の日本一（昭和29年以来54年ぶり）が達成されました。

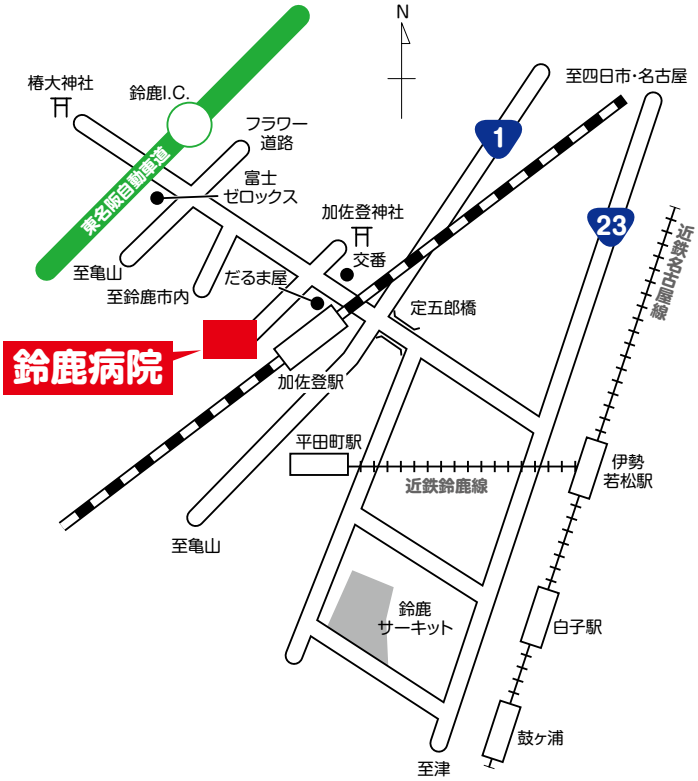
監督最後の年となった平成23年、落合監督は、マスコミや一部ファンに人気がなく、ナゴヤドームにも空席が目立ちました。シーズンも終盤、8月は一時Bクラスに低迷しました。9月22日の夕方、唐突に「落合博満監督、今季限りで退団、後任は野球解説者の高木守道氏」というテロップがテレビ番組に流れました。ところが、この監督解任が引き金になり「ゾーン（極限の集中状態）」に入ったドラゴンズは、首位だったスワローズを3勝1敗（9月22日～25日）、翌月には4連勝（10月10日～13日）と一蹴し、球団史上初のセリーグ二連覇を達成しました。

平成30年、新たなプロ野球シーズンがはじまります。ドラゴンズの低迷（球団ワーストの5年連続Bクラス）がつづく今、私は「落合監督の黄金時代」を生きた幸運を思うのです（監督時代の通算成績1150試合629勝491敗30分、勝率0.562）。

外来診察担当表（2018年1月1日現在）

	月	火	水	木	金
神経内科	小長谷	酒井 木村	久留 南山	小長谷	久留
内科	野口	内科医師	安間（循環器内科）	安間（循環器内科）	棚橋（循環器内科）
小児科		予約			予約
整形外科		田中（装具外来）			田中
リハビリテーション科					田中
皮膚科		予約			
歯科	黒原	稲垣（午後）		若林（午後）	
禁煙外来	野口			安間	

- 外来受付は 8：30 ～ 11：00、診察開始は 9：00 ～です。
- 歯科は身体障がい者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後 1：30 から整形外科で受付いたします（あらかじめ電話予約のうえお越しください）。
- 小児科外来は予約が必要です。あらかじめご相談ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています（月曜日）。
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。



交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス 椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

編集後記

新年を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか。初夢はいい夢を見られましたか？私は、寝起きの寒さで、さっぱり忘れてしまいました（笑）寒い時期が続き、インフルエンザも流行っております。予防注射や手洗い励行などで皆さま身体にはくれぐれもお気を付けください。さて、広報誌も VOL.32 を迎え、毎回作成にあたりご協力頂いている皆さまにはほんとうに感謝しております。今後も多くの方と協力しながら広報誌を盛り上げていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。　（撮影透視主任　小野）

独立行政法人国立病院機構　鈴鹿病院

〒513-8501　三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号
Tel.059-378-1321㈹　Fax.059-378-7083　http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/

平成30年1月発行